

充実した第2期にしましょう

長い夏休みが終わりました。今日から補習授業校が始まります。これから12月23日までの4ヵ月、補習授業校での一時間一時間を大切に過ごし、日本語能力と学力を着実に身に付け、友情を深めていただきたいと思います。

まずは、長い休みの後、学校生活を充実したものにするためには規則正しい生活習慣を取り戻すことが大切です。規則正しい生活の基本は、「早寝」「早起」「朝ご飯」です。早く寝れば、自ずと朝すっきりと起きられるものです。寝るのが遅くなれば、朝なかなか起きられないものです。しかしながら、生活環境を子供自身で整えることは簡単ではありません。そこで、規則正しい生活のリズムを作るのは親の出番ということになります。

まず、生活のリズムを取り戻そう

「早寝」

・睡眠中には、脳内ホルモン(メラトニン→ 体温を下げて眠りを誘う)と成長ホルモン(脳、骨、筋肉の成長を促す)が、午後10時～午前2時の間に活発に分泌されます。

「早起き」

・朝の光を浴びると、脳の覚醒を促すセロトニンという物質が活発に分泌され、頭がスッキリして集中力を持続することが出来ます。

「朝ご飯」

・朝ご飯をきちんと食べることで、脳に必要な栄養がいくとともに、午前中の心身の活動の源が確保されます。朝ご飯を食べることは、子供の学力や体力の向上にも大きな影響を及ぼします。

さて、補習校の学習が始まりますが、皆さんは毎週土曜日に補習校へ何のために来ているかという、学習をしてアメリカの

自らに問い、心の成長を

ことばかりでなく、日本のこともよくわかる「よい人間に向上する」ためですね。ところで、月曜日から金曜日まで現地校に通っている皆さんの脳みその働きは「英語で」です。そのため金曜日の放課後からは「日本語で」に切り替えなければなりません。そのことは、とても難しいことです。大変な努力のいることです。ですから、アメリカでの生活が長ければ長いほど補習校に通ってくる一人一人の大変さは異なっています。

そこで肝心なことは自分の「心の働き」です。何かに取り組もうとするとき必ず心が働き、やり方を決めます。例えば、「これらの漢字は読めて、書けるようになるまで声に出して発音しながら書き取り練習をするぞ!」と決めれば、途中でなかなか書けないという状況に陥っても、自分で書けるようになるまで頑張ると決めたんだから、そのようになるまで頑張ろうと実行できるものです。辛いことや苦しいことに対して自分の「心」は逃げたくなるほど弱気になるものです。だからといって逃げているはいつまでもたっても自分の力を伸ばすことなどできません。何にしてもすべては「心から」なのです。自分の心としっかり向き合って、「常に自らに問い、自ら答えを出す」ということを実践してほしいと思います。第2期も全校の皆さんの一人一人にとって、充実した学期になることを期待します。

【補習校のよさ】

補習校で学ぶ子どもたちの割合は、滞在5年以上が約70%、5年未満が約30%です。現地校に通う長期の子供たちは日本語より英語が得意になっているでしょう。反対に、短期の子供たちは英語より日本語が得意でしょう。こうした子供たちが一緒に学ぶことによってお互いに協力して苦手なところを克服していく姿を先生方は見えました。作文の苦手な友達に対して「英語でなんて言いたいのか」と聞いてあげて、その内容にぴったり合うように日本語を考えてあげる。こうしたことで相互理解が進み、友情が育まれます。

また、異なった文化や習慣からものとのらえ方や考え方にも違いがあり、クラスでのグループ学習や行事の進め方の話し合いを通して物事を多角的多面的に見ることができるようになってくることも十分期待できます。週1回の授業日の学習活動をこうした「よさ」を学ぶ機会としても過ごしてください。

ビルさん、今までありがとう!



補習校を運営するために様々なことに21年間お世話をしてくださいました。

子供の作文力を育てるために

〈作文コンクールをめざして〉
作文の苦手な子は多いものです。
作文の力を育てる過程を紹介しま
す。(保護者は第2の先生です)

【低学年】では、「音読」一声を出してスラスラ読めるようになることが一番大切です。スラスラ読めるようになると、言葉や文章をまとまりで理解できるようになってくるからです。

【中学年以降】では、「文を書くことに慣れる」ことが大切です。現在はメールでのやり取りの機会が多いでしょうが、鉛筆を持って、ノートに書くという行為が頭で考えていることを整理したりよりよい考えが浮かんだりといった脳みその働きをより活発にしてくれるのだそうです。「書くこと」を毎日できるとよいですね。

作文の力をつけるステップ1：その日の出来事を毎日1行でも2行でも書く。

「ママ、あのね～」と文を続けると書きやすい。

作文の力をつけるステップ2：その日の出来事を毎日5行くらいに、少し家の人に話すように詳しく書く。

「ママ、あのね～、○○○なことがあったんだよ。それはね、～」と話しかけるように書いてみましょう。

1年間続けることを意識して頑張ってみましょう。

作文の力をつけるステップ3：その日の出来事、学校で考えたことなど詳しく書く。または、日常生活での気にしていることについて「テーマを決めて」書く。

作文の力をつけるステップ4：その日の出来事、学校で考えたこと、ふだん疑問に思っていることなど、事実(見たり聞いたり、体験したりしたこと)と自分が思った意見や考えを分けて書く。

○まずは文章を書いたという事実を大切にしましょう。そして続けられるように書けたことを認めましょう。

「よく書けたね。」 「わかりやすく書けたね。」 「様子がよくわかる文だね。」

※褒める言葉：「よく書けたね。」 「上手になったね。」 「偉いね。」

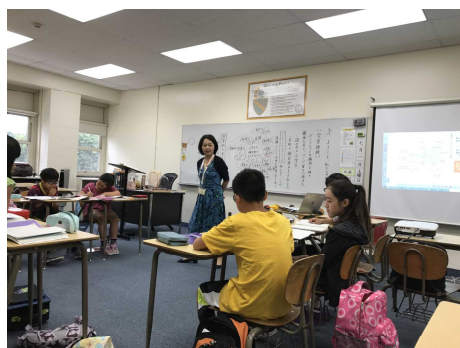
◆以下の言葉は、書く意欲をなくしてしまう言葉ですので十分気をつけ、言わないようにしましょう。

「字が汚い。」 「字をもう少し丁寧に書けるといいね。」 「“つ”が抜けてるよ。」 「この“つ”は小さい“つ”だよ。」 「もっと字を大きく書きなさい。」 「この漢字間違えてるよ。」 など

○私たち大人は、どうしても「作文の中で習った漢字が使えているか？」と求めて見てしまいがちになります。しかし、むしろ逆効果になってしまいます。漢字を覚えることと使えることとは、かなりの距離があるからです。今私もアメリカに来て4ヶ月半経ちますが、英語を覚えることと使えるようになることとの隔たりを 切実に実感しております。従いまして、作文を書くことと漢字が使えるようになることは、別々なのです。



校内授業研修



教員の指導力向上が学級・学校経営において大変重要な要素を占めます。今年度は日程の都合上、既に7月1日(土)6年生の授業研修を行いました。今後は、8月26日～平成30年1月20日で初等部・中等部の授業研修を行います。初等部では全員授業、中等部では国語、数学の授業をして相互に学び合います。本日の授業のねらい、ねらいに迫るための個人で考える、グループで考えを出し合う、学習内容を理解する、何を学んだかのまとめをするといった、学習過程で一人一人にとって確かな学びになるようにするための研修です。

学習課題についての資料や提示の仕方、個人で考える時間は何分必要か、一人一人の考えを出し合い、学びを広げたり深めたりするために発表の時間を何分取るか、全員に授業に参加させるためにどのように発表させたらよいか、さらに深く考えさせたりするためにどんな課題あるいは視点を提示したらよいかなどについて練られた授業を実践し、その後分析的に授業を検討することで授業力の向上を目指します。

授業研修を通して、保護者の皆様のご期待に応えられるようにした

【6年2組国語の授業のようす】 ひと考えております。幼児部は、初・中等部のようには実施できませんので、別形式の研修を行います。また、高等部については、中等部の授業を参観することで研修を行います。

補習校に新たな友達が増え31人 (8月19日現在：総計469名)

学年	幼	1	2	3	4	5	6	中1	中2	中3	高1	高2	合計
男子	2	1	2	5	2	2	1	2	0	1	1	1	20
女子	0	2	2	0	0	1	2	2	2	0	0	0	11
合計	2	3	4	5	2	3	3	4	2	1	1	1	31

新しく本校に通学して下さるお友達が早くクラスになじめるように、クラスの皆様のご協力をよろしく願います。